

令和5年度第1回逗子市自殺対策計画推進懇話会 議事録

日 時 令和5年7月25日(火) 13時30分から 15時30分

場 所 逗子市保健センター3階会議室

出席者 山田朋樹(アドバイザー)、小保内洋子(アドバイザー)、中嶋富美子、市川悟、
市川由美子、竹田晃祐(代理出席)、小野真歩、漆垣かなえ、石澤方理

欠席者 池上直樹

傍 聴 なし

事務局 廣末参事、青山副主幹、有賀係長、福本、佐藤

議事概要

1 開会

資料確認及び次長あいさつ、前回欠席者の自己紹介を行った。

2 議題

(議題1) これまでの自殺対策計画の進捗状況の確認と評価について

① これまでの自殺対策計画の進捗状況について

<事務局より>

資料1を用いて説明。

基本理念である「誰も自殺に追い込まれることのない逗子市」を目指すために、これまで4本の柱を設定して取り組んできた。これまでの取り組みについて報告する。

1. 生きることを支える人材の育成

ゲートキーパー研修、自殺対策に係るスタッフの研修、職員や教職員向けの研修が該当し、当課や職員課、学校教育課等で取り組んできた。新型コロナウイルスの影響で縮小での開催や中止したことがあった。ゲートキーパー研修については、コロナ禍以前はケアマネジャーやボランティア協議会等の地域団体を対象として実施していたが、R3年度より市民向け講座として実施。アンケート結果から参加者の求めるレベルも様々であり、研修の内容等の課題も出てきた。市の職員向け研修についても、職員課や学校でも取り組んできているが、より協働して取り組んでいく。これらを総合的に評価し、総合判定をBとした。

【質疑応答】

<メンバーより>

- ・ゲートキーパー養成講座について。市民向け講座に意向し、今後どう生かしていくか。ゲートキーパーを増やした中でどう活用していくか等の検討をしているのか。

<事務局より>

- ・地域の中に理解者を増やしていくことだけではなく、養成講座を受けた人が地域の中でどう行動に移していくことが課題と捉えている。例えば、ゲートキーパー養成講座を受講した人に自殺対策に関する普及啓発活動に協力いただく等も方法として考えられるが、ま

だ検討段階。次期計画ではそういった観点の内容も入れて考えていきたい。

<アドバイザーより>

- ・自殺対策にかかるスタッフの研修と職員向け研修の違いについて確認したい。記載内容から職員向け研修は職員のメンタルヘルスに関するものとも捉えられるが、自殺対策にかかるスタッフとはどなたを想定しているか。また、研修の参加者がわかるようなテーマにした方がより意識が高まると思う。

<事務局より>

- ・自殺対策にかかるスタッフは、基本的には全職員と考えている。令和元年度は福祉部行政課題研修として実施したが、それ以降は実施ができていない状況。

2. 市民への啓発・周知

自殺対策講演会、健康づくり出前講座では地域のサロンや団体向けに講座を実施。また、啓発活動としては様々な広報媒体を使って行ってきた。講演会は年1回の実施となっていたが、啓発活動は自殺予防週間や自殺対策強化月間等の期間を中心に実施した。講演会は目標の回数には目標達成に至らず、啓発活動においても対象を拡大していきたいと考え、総合評価をBとした。

【質疑応答】

- ・なし

3. 地域・市内組織間における連携の強化

逗子市自殺対策計画策定等検討会の設置、自殺対策に係る各種会議への参加等が該当し、コロナ禍で検討会の開催ができなかった期間もあったが、それ以外の会議はおおむね計画通り実施できたため、総合評価をBとした。

【質疑応答】

- ・なし

4. 生きることの促進要因への支援

様々な相談業務、給付業務、法律や健康教育等の支援を行ってきた。コロナ禍で実施困難な事業も多かったが、開催方法等工夫しながら対応できた。総合評価をBとした。

【質疑応答】

<メンバーより>

- ・生活困窮者の支援については書かれているが、生活保護のことが書かれていない。生活資金も課題になってくるのではないかな。困窮から自立支援を行っていることは理解しているが、就労困難な方への生活支援といった視点が欠けているのではないかなと思う。どこの課でどのようなことを行っているかが分からない。

<事務局より>

- ・生活保護に関する項目が現在の項目の中に含まれていないので、追記していく。また、生活支援・生活資金等そういった視点考慮しながら、今後検討・担当課と調整していく。

②成果指標について

＜事務局より＞

資料 2 を用いて説明。

1. 自殺死亡率について。現行計画策定時の直近 5 年間の平均は 14.6（人口 10 万人対）だったが、計画期間の平均は 13.7 であった。令和元年度に 20.1 と最も数字が大きくなったが、人口が少ない自治体では 1 人の増減でも数値が大きく変動してしまう。5 年間の平均としては減少傾向ではあるが、目標（12.4）は達成できず。

2. 施策の成果指標について。ゲートキーパーの研修や普及啓発に関するものを挙げていた。参加者数は目標達成には至らなかったが、参加した人の理解については目標達成となった。普及啓発については、鎌倉保健福祉事務所、管内の市町と社会福祉協議会でいきるを支える鎌倉・逗子・葉山実行委員会にて開催している講演会の 1 回のみとなった。

【質疑応答】

・なし

③全体を通しての意見・質問

＜アドバイザーより＞

- ・多岐に渡って実施していると思う。達成度を入れているのも画期的だと思うが、評価が難しいかもしれないが、改善度を入れるとよいかもしれない。
- ・市全体の様々な課で携わっているのがよい。相談事業を行っていると、一言目に言われるのが、どこへ相談に行ったらよいかわからないとの訴えが多い。広報で周知をしても、本人のところにつながっていくことが難しく、最初の接触で得た情報を共有できるシステムがあったらと思った。

（議題 2）第 2 次自殺対策計画の方向性と指標について

①基本理念、基本方針について

逗子市自殺対策計画 P.6 に記載のあるとおり、国の自殺対策総合大綱に基づき定められている。国の方針や県の計画の中でも大きく変更がないことから、基本理念と基本方針は現行計画と同様のもので進めていきたい。

②取組の 4 本柱について

1. 生きることを支える人材の育成

自殺に気持ちが傾いた人の早期発見・早期対応、ゲートキーパーの養成していくこと、ゲートキーパー養成講座を受けた人の活用とともに、受講対象に応じた内容の見直しやフォローアップも検討していきたい。また、市職員向けの研修等については、関係各課とも連携して行っていきたい。

【意見・質問】

<アドバイザーより>

- ・成果指標にもある「自殺対策の理解が深まった」や「関係機関との連携の大切さ」の質問項目はどうなっているか？
- ・何も知らない人であれば、トレーニングを受ければ知ることになるので、理解が深まるのは当たり前だと思う。それも大事だが、そこからどのようなことができるかが大切なので、そこを問いかけるようなアンケートもあってよいと思う。今の質問だと発展性が薄い。今後のヒントになるのではないかと思う。
- ・受講者によって実際にイメージが付く人とそうでない人がいると思う。ただ、その中で何が学べたかを主催側が把握して工夫の余地を持たせたほうが、発展性があるのではないかと思う。

<メンバーより>

- ・実際に研修を受けて、一歩踏み出す対応、声掛けの大切さ等の話があり、かなり踏み込んだ対応の話をしていたと記憶している。
- ・自殺を思いとどまるのに、身近な人の声掛けが影響しているといった研究も聞いたことがあるので、そういったちょっとしたことが、自殺を思いとどまるきっかけになるのかもしれない。

<事務局より>

- ・質問項目としては、「自殺対策についての理解は今までと比べて深まりましたか」、「自殺対策を進めていくためには、いろいろな関係機関（一人ではなく、地域全体）で連携することが大切だということが理解できましたか」といった内容で、回答は深まった・変わらない、理解できた・理解できないといった方式。
- ・内容の理解だけではなく、踏み込んだところを問うことで、主催側の気づきにもなり、一歩進んだゲートキーパー養成講座を検討することもできるので、意見を参考にしていきたい。

2. 市民の啓発・周知

研修の充実、講演会以外での普及活動について、現在は公共機関等の限られたものになっているので、各関係機関と連携しながら幅広く・色々な人が集まる場所にも設置できたらと思っている。

【意見・質問】

<メンバーより>

- ・自殺対策のスタッフは市職員全員が対象といった話もあったが、どの部署でもキャッチできるようにするとよいと思う。また、ゲートキーパーの研修も市民全員が受けられたら、みんながゲートになれると思う。

<事務局より>

- ・つながっていく体制づくりや庁内連携も大切であると認識している。キャッチするところとそこからつないでいくこと、併せて行っていく必要があると考えている。

3. 地域・庁内組織間における連携の強化

引き続き本懇話会で取り組んでいくとともに、今年度より庁内における担当国会議を新設。担当国会議では、住民対応・相談業務を行う8課が参加している。事例を通して、その時の対応、他課との連携について共有した。今後は他部署につなぐ際にも、対象者が同じ説明をすることがないように、つなぎ方等も工夫が必要と思っている。

【意見・質問】

<メンバーより>

- ・担当国会議のメンバーは、どのような課の人がいるか。

<事務局より>

- ・担当国会議のメンバーは、納税課、市民協働課、社会福祉課（地域共生係）、障がい福祉課、高齢介護課、学校教育課、子育て支援課、国保健康課（保険年金係）で構成している。

<メンバーより>

- ・市の職員は、市民から相談を受け、つなげていくこと、その行為は他から認められるものなのか。学校では、様々な捉え方があり、早期に動いたことで大事にならなかったこともあるが、中には大騒ぎしたと言う人もいる。
- ・ゲートキーパー養成講座を受ける人が増えると気づきも増えるので、理解が深まるかもしれない。

<事務局より>

- ・市で受ける相談と学校でのケースでは違う部分があるかもしれない。個々の業務の中で、例えば納税が困難といったことで相談があった際に、稼ぎ頭が病気になって働けないといった背景があったり、その要因に対して対応する部署へつないでいくといったケースが多いと思う。

4. 生きることへの促進要因への支援

引き続き継続していく。また先ほど指摘のあった生活保護のことや、これまで入っていなかったがケースワークのこと等も含めていきたい。

【意見・質問】

<メンバーより>

- ・障害の相談支援事業所に相談したが結論得られず、社会福祉協議会に相談が来ることがあった。この一覧の中でも障害の方の相談（本人・家族含めて）が分かりづらい。相談業務全般的に見せ方の工夫や整理が必要ではないかと思う。
- ・重層的支援体制整備事業を行っていると思うが、各担当課の説明会を行っていると思うが、自殺対策計画推進担当国会議とも重複している部分もあるのではないかと思うので、連携はとれているのか。

<事務局より>

- ・別紙1の各柱に対する事業の表は、現行計画策定時に国が作ったベースとなるものを参考に作ったものなので、不足しているものも出てきている。各課と確認しながら内容は

整理していく必要があると思っている。

- ・また、重層的支援体制整備事業と自殺対策計画推進担当者会議では役割が違う。担当者会議はケース検討をするといったことが目的ではなく、全体的な自殺対策を推進していくといったことが中心なので役割の切り分けをしているが、今後更に話を詰めていく。

<メンバーより>

- ・自死遺族のグリーフケアはどこで行っているのか？

<事務局より>

- ・自死遺族の会といった形で保健所単位（広域）でいくつか行っている。

<メンバーより>

- ・不安や軽減につながったといった内容が書かれているものが多いが、統計等根拠はあるのか？他市では相談件数がこれだけ減ったので軽減につながったといった数値的な根拠をもとに示しているところが多いように思う。
- ・アドバイザーからの助言でもあったように、実施側がどこに問題があるかを把握し、次につながられると思うので、数値評価困難といったものは特に評価するための指標（アンケート等）が必要だと思う。

<事務局より>

- ・担当課にも確認は必要だが、一般的には継続して支援する中で、次第に落ち着いてといった・解決したといった形で把握しているものだと思うので、アンケートを取ってということではないと思う。意見内容については担当課とも共有する。

<メンバーより>

- ・これから命を絶つ決意をしているといった相談を受けることもあり、傾聴して優しく声掛けをしているが、相談がある人よりも相談がない人のほうが対策が難しい。最近の傾向として若い世代が多い印象がある。原因として職場環境からの孤立や、就労に失敗したり、生活困窮等の問題がある。家族や身近な人にも相談できず、抱え込んでしまっていた様子。今後、啓発活動を行うのであれば、サインに気づくようなことにも着目してもらえるとよいと思う。

<アドバイザーより>

- ・自殺総合対策大綱にも、自殺の危険性が高い人を早期に発見し確実に精神科医療につなげるよう体制の充実と明記されており、そういった視点で考えていくことも大切だと思う。何らのサインがあっても、意識しないとサインと分からないこともある。

<メンバーより>

- ・SOS を出してくれる子どもは対応できるが、相談することさえもできず、その根底には「困っている状況」という認識も、「相談することなんだ」という認識もない場合もある。そういった場合は、「SOS を出す状況」「困る」ということを教えていく必要がある。誰かが助けてくれないから SOS を出さないといった悪循環だったりもする。

<事務局より>

- ・周囲の人が察知してということが難しいかもしれないが、そういった力を持っていくことや、ゲートキーパー養成講座や人材育成の中でそういった視点も必要だと思う。

③全体の成果指標について

別紙3を用いて説明。

1. 自殺対策全体の成果指標としては、自殺死亡率としては10.2以下を目標とする。
2. 施策の成果指標については、これまではゲートキーパーと普及啓発の内容に限定されていたが、各柱の内容を盛り込み項目を設定。今回は成果指標の内容を検討したい。

【意見・質問】

<アドバイザーより>

この内容で概ねよいと思うが、逗子市は母数が少ないので、数値目標に無理があると思う。いかに1人でも多くの方がゲートキーパーを知ってもらえる活動ができたかとか、全市民のうち何千人までそういう機会を作ったといった方が分かりやすいと思う。こういった発想も今後持っていくのもよいのではないかと思う。

<メンバーより>

- ・葉山町でも数値目標は設定せず、普及啓発を広げていくといった話が出ていた。

<事務局より>

今回意見いただいた内容をもとに、成果目標等は検討していく。

3. その他

<事務局より>

- ・今後のスケジュールとして、骨子案を作成し、10月上旬頃（第2回懇話会前）に送付し、意見を伺い、内容を反映させて次回の懇話会で提示する。次回は10月23日（月）13：30～保健センターの予定。